

NO	分科会	分科会の意見等の概要	市の対応(回答)
1	観光・商工分科会	大井川を取り囲む歴史や文化をストーリー化して官民一体となって日本遺産登録を目指したかどうか。	日本遺産は、国が認定することから、相当なブランド力が求められ、地域に根ざして継承保存されている文化財を面として活用する方策のほか、文化を日常的に発信及び体感できる施設も必要であり、現在、市内の存在する文化財のみでは、日本遺産認定は困難であると考えます。しかし、地域の歴史や文化、観光スポットを結びつけ、ストーリー性を持たせていくことは、観光客へのアピールに繋がり、滞在時間や経済効果の増加に結びつく重要なことだと認識しています。そこで、様々な業種の皆さんが、連携して「観光で稼ぐ」という意味を共有し、観光客が興味を引くものを創り上げることが求められます。また、DMOと連携して旅行会社などへ売り込みを行うなど、観光協会との連携も進める必要があります。
2	福祉・健康・文化・教育分科会	市および教育委員会から小中学校へ、毎月第三日曜日は部活動や、学校行事を行わないよう指導する。	このことにつきましては、総合教育会議でも提案があり、平成30年度からは、毎月第三日曜日は原則として部活動や学校行事を行わないことで校長会で承認を得ることができました。
3	福祉・健康・文化・教育分科会	市から学校側へ、社会教育団体の活動紹介の場の設置を働きかけてほしい。	社会教育活動団体に係る催しについては、児童生徒にとっても有益と判断できるものは、学校活動に支障のない範囲において活動紹介の場を提供していきたいと考えております。また、公民館等においては、広報紙や掲示板を利用することも可能ですし、「フェスタしまだ」などのイベント時に紹介コーナーを設けたり、子ども対象の催しについては、子育て応援サイト「しまいく」へ掲載したりすることも可能ですので、積極的な活用をお願いいたします。
4	福祉・健康・文化・教育分科会	各種社会教育団体のHPリンク、問合せ先などを市HPに掲載してほしい。	各種社会教育団体の情報発信については、市民活動センターへの登録制度等の活用や市ホームページにより、来年度準備が整い次第、情報発信が可能となりますので、情報の積極的な提供をお願いいたします。
5	福祉・健康・文化・教育分科会	新たに建てる施設には必ずエレベーターを設置してほしい。	新たな施設整備に際して、「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」及び「静岡県福祉のまちづくり条例」の規定に適合する内容とするよう努めてまいります。
6	福祉・健康・文化・教育分科会	既存の建物でエレベーターがない所は階段昇降機を設置してほしい。	エレベーターのない既存施設への階段昇降機の設置に関して、今後の長期的な施設の維持管理方針と照らしながら、どのような対応ができるか検討したいと考えています。
7	福祉・健康・文化・教育分科会	段差のある施設には対策として簡易スロープを置いてほしい。	各公共施設の状況を確認し、簡易スロープの設置が必要な箇所について、順次対応してまいります。
8	福祉・健康・文化・教育分科会	しまだ大井川マラソンinリパティの障害者版「しまだ大井川マラソンnoバリアー」を開催してほしい。	公道を使うマラソン大会においては、「車いすの部」を設けている大会もありますが、しまだ大井川マラソンの場合は、幅員7mのリパティを往復で使用していることから、参加者の安全を考えると同日の開催は難しいと考えます。また、全国規模の大会を行うためには、宿舎や更衣室、トイレなどのホスピタリティーにおいて大きな課題があると認識しています。とはいえ、マラソンコースリパティの環境は、車椅子の皆さんが健康づくりを行う場所としても非常に適していると思いますので、様々な団体の皆様がそうした取り組みを行うのであれば、市といたしましても積極的に応援したいと考えます。
9	福祉・健康・文化・教育分科会	公園などに車椅子利用の子供たちが遊べる遊具の設置をしてほしい。	公園につきましては、現在、可能な限りバリアフリー化に努めております。また今後も11の公園の多目的トイレの整備を進めていくことを考えており、障害者専用の遊具におきましては設置することは考えておりません。
10	福祉・健康・文化・教育分科会	公共施設を作る際は計画の段階から障害当事者・車椅子利用者を加えて欲しい。	当事者の方々の御意見を反映できるよう検討してまいります。
11	福祉・健康・文化・教育分科会	これからも活動を続けるにあたって、協働推進課に協力してほしい。	これからも活動を継続いただけるのことににつきましては、大変ありがたく思っております。今後の皆様の活動に対しては、当面の間、協働推進課が窓口となりフォローさせていただきますが、皆様には歩歩路に設置しております市民活動団体への支援機能を有しております市民活動センターなどをご利用いただきながら、一つの市民活動団体として自立され、市民参加のまちづくりにご協力いただくことを期待しております。
12	福祉・健康・文化・教育分科会	今回のお祭についてのワークショップ等のように、市民から出された意見やアイデアを行政としてどう扱うか。	現在市では、市役所周辺整備計画のワークショップを開催しておりますが、今後も市民の皆様からの御意見やアイデアを収集する手段としてワークショップを開催する機会は増えることと思います。そして、そこで出された市民の皆様からの御意見やアイデアは、市が施策を推進していくための参考とさせていただきたいと考えております。
13	まちづくり分科会	牧之原でアートフェスティバルを開催したらどうか。	牧之原大茶園ではこれまでも、地域の方々が連携し、地元の陶芸作家を活用したアート紀行や大井川鐵道の無人駅でのアート展などが行われております。市では、市内の文化資源や担い手の掘り起こし等を行うとともに、従来の文化・芸術活動に新たな視点や発想を取り入れた独創性の高い「島田オリジナル」な事業創出をねらいとして、「文化プログラム支援事業費補助金」を平成28年度より設けております。是非、本事業をご活用いただきたいと思います。

NO	分科会	分科会の意見等の概要	市の対応(回答)
14	まちづくり分科会	リバティで全国ネットワーク対抗女子アナウンサー駅伝大会をやってほしい。	リバティを活用したイベント等は、交流人口の増加や健康増進など、様々な面での効果が期待されます。ご提案のありました女子アナウンサー駅伝大会など、各種団体の方々が主体となって企画されるイベントに対しては、市としても周知等支援を行っていきたくと考えています。
15	まちづくり分科会	リバティマラソンで金谷側の河川敷も走路として利用は出来ないか。	マラソン大会のコース設定につきましては、参加されるランナーが安全に走れることが最も大切な条件であります。約8千人が一度に走る本大会では、現在のリバティの幅は7mで一杯の状況でありますので、歩道橋の幅では安全な走路として認められないと考えます。また、一般道をコースとして利用するには様々な条件があり、簡単には許可が下りません。「制限時間7時間、途中関門なし」で実施できるのも、河川敷を使っているからこそできるものです。そうした意味からマラソンコース「リバティ」を最大限に活用した今のコース設定が現状ではベストだと考えます。
16	まちづくり分科会	ふるさと納税の方向性は	まず、ふるさと納税はお礼の品代や運営に掛かる諸経費、また市内の方が他の自治体へ寄附をした際の税控除を踏まえたと、寄附金額より必要経費額及び、所得税控除額の合算金額の方が多くなっている自治体の方が多いという実態をお伝えしなければなりません。その中で島田市は昨年度につきましては何とか必要経費及び所得税控除金額の合算を寄附金額が上回りました。また返礼品につきまして、島田市では市内経済活性化及び魅力あふれる商品のPRのために地場産品にこだわっております。この方針は今後も変える考えはございません。
17	まちづくり分科会	一番茶油をバックアップしてほしい。	御提案をいただいた商品については、現在島田市のふるさと納税のお礼の品として、登録させていただいております。今後もふるさと納税を通じて、島田市の地場産品を積極的に全国に向けてPRしてまいります。
18	まちづくり分科会	B級・C級グルメコンテストを実施し、市民投票を行い、島田のご当地グルメを開発してほしい。	現在、島田商工会議所を中心として、島田の名物の中で市内の飲食店さんと一緒に「さくらめし」をご当地グルメに育てるプロジェクトが行われています。コンテストという形式ではありませんが、ご当地グルメの開発に向け、このような事業者や市民等の自発的な取り組みを商品開発等のアドバイスやPR活動のお手伝いをすることにより支援していきたくと考えています。
19	まちづくり分科会	本通り乱舞コンテストの実施(ソーラン踊り)	これまで、本通りで開催される島田夏まつりでの踊りの披露やSLフェスタに合わせて「かなや踊ら舞」というイベントを開催しており、市内外から多くの参加をいただいております。新しいイベントを始めるには難しいことも多くありますが、今行っているイベントに多くの人が参加できるメニューを設けていくことは可能だと思います。また少し、皆さんの雰囲気をご参考させていただきながら、そうした可能性についても検討していきたくと考えています。
20	まちづくり分科会	ふるさと納税の使い方を観光の目玉に結びつけたらどうか。	寄附金の使い道の明確化については、例えば、具体的な寄附の使い道を指定させていただくクラウドファンディングを活用する方法もございますが、導入については他自治体の状況を参考にしながら検討していきたくと考えております。
21	まちづくり分科会	蓬莱橋と富士山がワンショットで撮れる場所を整備して作るべき。	最近では、インスタ映えする場所が大変人気になっており、ここにしかない綺麗な写真が撮れる場所は重要だと認識しています。蓬莱橋におきましても、右岸側からは綺麗な富士山を臨むことができます。この10日には島田商工会議所青年部の皆さんにより「大型フォトフレーム」が設置されました。ただ残念ながらこのフォトフレームでは富士山と蓬莱橋をワンショットでということは、方向的に難しい状況になっています。このほか、現在は左岸を中心に整備を進めておりますが、今後右岸側の整備に向けた計画を立てていきますので、そうした場所についても検討させていただきます。
22	まちづくり分科会	蓬莱橋の関連商品の開発	今年度静岡産業大学の学生と市内業者の皆さんで、お茶をテーマにした商品開発が行われ、1月に発表会がありました。また、島田市緑茶化計画に関連し、ウェルシアさんとの連携による商品も売り出されています。蓬莱橋につきましても、物産所がオープンし、島田の魅力的なお土産を販売していきますので、引き続き新商品の開発を応援していきたくと思います。なお、観光特産品の開発を支援する補助金もありますので、ぜひご活用いただきたいと思います。
23	まちづくり分科会	蓬莱橋に新設される販売所に、ふるさと納税の返礼品コーナーを設けたらどうか。	蓬莱橋の物販所では、「お茶と島田の逸品」を主体に商品を揃えています。そうした意味では、ふるさと納税の返礼品になっている島田の逸品が揃えられるものと認識しています。
24	Next風穴分科会	「会議の公開」要綱改定の提案	市民への情報公開の必要性をもって会議録の公開を行っています。公開期間についてはホームページにおける閲覧状況をふまえ、現状の運用が妥当であると考えています。また、公開が終了した情報については公文書の開示請求手続により対応いたします。
25	Next風穴分科会	議事録公開の形骸化防止	要綱に定める会議録の記載欄は、内容に応じて広げることができますので、柔軟に運用していきたくと考えています。また、必要に応じて会議要録を添付する場合があります。
26	Next風穴分科会	削除ファイルリストの公表を求める	ホームページのリニューアルにおいては、現行のホームページの情報を原則移行する予定です。従いまして、大量に削除するというようなことはありません。
27	Next風穴分科会	広報はまだ外部評価委員会制度設計案	市長は市民から選ばれており、市民の負託に応じて行政運営を責任をもって行なっています。その責任の下でのタイムリーな情報提供が広報紙の役割であることから、新たな外部評価委員会を設置することは考えておりません。

NO	分科会	分科会の意見等の概要	市の対応(回答)
28	Next風穴分科会	島田方式アンケートの全国普及	市が実施するすべてのアンケートにおいて「わからない」という選択肢を一律に削除することは考えておりません。しかし、ご提案のように「わからない」という選択肢を設けない方式を含め、アンケート調査の目的に応じて、選択肢を検討し、アンケートの精度向上を図ってまいりたいと考えております。
29	Next風穴分科会	市役所だつて間違えるキャンペーンの提案	島田市行政経営戦略に基づき、職員の意識改善運動、職員の接遇の向上や説明能力の養成のための研修等の取組を進め、市民満足度の向上に努めていきます。また、これらの取組については、引き続き、PDCAサイクルにより進行管理を行っていきます。
30	Next風穴分科会	シティ・イメージの統一	第2次島田市総合計画の策定においては、市の将来像を定め、市民の皆様と共有していただけるよう取り組んでいるところです。その中で、「島田市緑茶化計画」を旗印に、シティプロモーションを推進していきますが、市民の皆様が思う島田の良さを市内外の人に伝えていくことが大切ではないかと考えております。それは観光だったり、暮らしやすさだったり、それぞれで良いと考えます。
31	Next風穴分科会	名札着用の徹底	首下げ式のものは裏側にも名札の表示を行う、見えやすい胸の辺りに着用するなど徹底することで、職員に周知しました。
32	Next風穴分科会	HPの改善	現在、ホームページのリニューアルに向け、機能要件や仕様書の検討を行っており、ホームページ利用者が利用しやすいデザインにしていきたいと考えています。検索しやすさも含めまして、他の自治体のデザインを参考にするなどして検討していきます。
33	Next風穴分科会	市長や、行政は、創作意欲、創業意欲、移住意欲を醸成する地域づくりこそ本来の市政。	今回の例にあります「ジャンボ干支」についても、地元の皆様の創作意欲はもとより、創業意欲という点では会場で地場産品も販売しておりますし、移住意欲という点でも、わざわざ北海道からこの「ジャンボ干支」をご覧になるため島田へいらっしゃる方もいます。ご提案のとおり、創作意欲・創業意欲・移住意欲を醸成する地域づくりが、これからの地域コミュニティを維持する上で大事であると考えております。しかしながら、地域がこうした取り組みをおこなうためには、様々なリスクや課題が伴い、大変なエネルギーを必要とすることも事実であります。こうした中、市内では相賀地区の「相賀の里をよくする会」が、耕作放棄地を活用した「杏の里づくり事業」、「地区の特産品となるような農作物の育成事業」、都市と田舎の交流事業として「三鷹市の皆さんとの農業体験をとした交流事業」、また「IT企業の進出支援」などに取り組んでいます。市では、こうした地域の自発的な取り組みに対して、積極的に支援をしていきたいと考えます。
34	Next風穴分科会		公害の発生に関しては市と県が互いに協力し、事業活動に伴って発生する排ガス、排水、騒音、振動、悪臭、ダイオキシン類等を規制し、工場・事業場の環境監視指導を行っています。また、島田市環境基本条例に基づき、市と企業が互いに協力して良好な生活環境の維持と住民の健康を保護するため、周辺の環境に大きな影響があると思われる事業所については環境保全協定を締結するよう努めており、締結工場には毎年環境保全計画書の提出を義務づけその達成度について協議や見直しを行っています。最終処分場につきましては、使用終了した現在も毎月放流水の測定を行っており、排水基準を遥かに下回る結果となっております。
35	Next風穴分科会	意欲の妨げとなっている悪臭や汚水などの公害、高圧的態度や無作為不誠実な職員、若者が意見できない高齢者支配社会・・・を除去することに熱心になりましょう。	傾聴と説明という接遇の基本について、引き続き職員に徹底していきます。
36	Next風穴分科会	意欲の妨げとなっている悪臭や汚水などの公害、高圧的態度や無作為不誠実な職員、若者が意見できない高齢者支配社会・・・を除去することに熱心になりましょう。	全国的にも、若者の地域活動への参加が低下が課題となっておりますが、その原因の一つとして、古い伝統や慣習を重んじる高齢者の方々との考えの相違ということも考えられます。島田市内では、自分達の「やりたいこと」や「楽しいこと」を企画運営しながら、様々な場面でまちづくりのために活動している若者たちがいます。こうした若者たちによる活動が広がるのが高齢者の理解を得ることにつながり、若者と高齢者の距離が近づくものと考えます。そうした一例として、中溝町自治会がおこなっている「なかみぞさんち」という取り組みがあります。「なかみぞさんち」は、最近の子ども達は自分のお小遣いで買い物をするのが少ないことから、子ども達の買物体験を目的に、地域のみなさんが公会堂を使って週2回「駄菓子屋」を開いているもので、放課後地域の子供達が公会堂の手作りの駄菓子屋に集り、店員役の高齢者の皆さんと、買い物や遊び、また宿題などを通して触れ合っているものでございます。そして、子ども達や高齢者のみなさんの居場所づくりとして、また、地域の憩いの場となっているものでございます。そこには、若い保護者のみなさんが大変活躍されており、まさに子ども・若い世代・高齢者が一緒になって、地域の結びつきを強めることに大きな成果を上げている一例であります。